

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区(学校群)におけるめざす子ども像
「自らを律し、自ら学び続ける子」の育成

堺市立深井小学校
校長 服部 倫子

令和7年度 重点目標
学校教育目標「美しい学校にしよう(聴く・挑戦・思いやり)」を踏まえ、重点目標を「多様で柔軟な学びとつながり、ともに高め合える学校づくり」とし、具体的には (1)「総合的な学力」の育成、(2)豊かな心と健やかな体の育成、(3)特別支援教育の充実、(4)特別支援教育の充実に取り組みます。

確かな学びの現状
児童は、全体的に落ち着いて学習に取り組む姿勢ができており、活気のある学校生活を送っています。研修テーマを「意欲的に授業に参加し、学びを楽しむ子どもの育成～学びのコンパスを意識した単元づくりをめざして～」とし、研究教科を算数から全教科に広げ、すべての教師へ研究機会を広げ、教師が教科の本質を理解し、子どもの実態を把握しながら子どもが自ら学びを進め、自分ごととして学ぶ授業を展開し、総合的な学力の育成を図ります。基礎的・基本的な知識や技能、思考・判断・表現力等の定着と、子どもの心の中で「なぜそうなるんだろう」「やってみよう」という困り感や問題意識を醸成させ、「たい」を生み出すことで、子どもが意欲的に学習に参加し、他者との協働探究的に学ぶことを通して、どのように学ぶのかを考え、子ども自身が自分に合った学びを進める「子どもが主語」となる授業をめざします。また、学校群ICT授業改善会議を立ち上げ、ICTを活用した個別最適な学びに繋がる授業の検討を始めます。「自主学習71%(6P ↓)」から、毎日の家庭学習で基礎基本の定着を図り、また、主体的に取り組める自主学習の課題を提供することに着手していきます。学校アンケート結果「自分から進んで挨拶95%(12P ↑)」、「チャイム着席97%(2P ↑)」から、引き続き、規律・基本的な学校生活習慣を維持しながら、全員が安心して学び高めあえる学校環境づくりを行います。読書習慣の定着が図れるよう、中図書館と連携し、蔵書数、学級文庫の充実、読み聞かせ等で本に触れる機会を確保し、図書環境を整えます。

豊かな心・健やかな体の現状
概ね楽しく学校生活を送っている児童が多く、教職員との関係も良好です。今年度は、支援学級1学級増(7学級)から、支援学級在籍児童の情報共有し、令和8年度の制度改正を踏まえ、すべての教員の支援教育の専門性や指導力の向上を図ります。支援が必要な通常の学級在籍児童に対して特別支援教育コーディネーターが、個別の支援計画を立て、担任とともに学級内で支援を行い、インクルーシブ教育を推進し、誰一人取り残さない温かな学級づくりを進めていきます。学校アンケート「人が困っているとき進んで助ける91%(2P ↑)」、「友だちや他の人に思いやりの気持ちを持って接する96%(3P ↑)」の肯定的回答は高いですが、「いじめはどんな理由があってもいけない」では、「そう思う」が62%(20P ↓)、「わからない」が7%(5P ↓)の結果を重く受け止め、子どものいじめに対する認識を高め、未然防止・早期発見・解決を図り、教育活動全般を通して豊かな心・健全な心・道徳性の育成を図っていきます。体力面では、新体力テストの結果から、すべての学年において記録の向上がみられましたが、握力では、堺市平均を下回る学年が多いという結果でした。これを受け、体育の授業において、鉄棒や雲梯を使ったサーキット活動などを取り入れながら改善を図り、運動の楽しさを実感できる授業の充実を図ります。また、引き続き全学年で「リズムなわとび」に取り組み、様々な技に挑戦する場の設定を工夫することで、主体的に参加する態度を育てながら、持久力の向上を図ります。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	主体的に学ぶ 子どもの学びの育成	●基礎基本の定着 ●多様な他者と協働した探究的な学びの充実	●毎日の家庭学習による基礎基本の習得 主体的に取り組む自主学習にむけ、課題を工夫し校報等で提示する	「家で自主学習を毎日する」肯定的な回答が概ね80%以上 研修委員会での報告	実践報告 学校アンケート	年度末			
			●学び合いや多様な他者とつながり、探究的な学び等を通じ、どのように学ぶのかを考え、子ども自身が自分に合った学びを進める。	「授業中に交流を通して自分の考えを人に伝える」「先生や友だちの話をしっかり聴く」肯定的回答が概ね80%以上 ICTインフルエンサーからの報告	学校アンケート 実践報告	年度末			
			★ICTインフルエンサーを活用しながら、効果的なICTの利活用による授業を通して、個別最適な学びで、子ども自身が自分に合った学びを進める。	タイピング等のICT技能の向上や、タブレットを活用して自分の考えをまとめて伝えたりすることができる。 学校群ICT授業改善会議での報告	ICTアンケート 実践報告	年度末			
豊かな心・健やかな体	授業改善	・「学びのコンパス」を意識した単元づくり ・子どもが主語となる授業づくり	●★教師が教科の本質を理解し、「学びのコンパス」を意識した単元づくりで、自ら学びを進め、各教科の見方考え方が身につけられるよう自分ごととして学ぶ授業の展開をめざす。	研修委員会での報告 学校群ICT授業改善会議での報告	実践報告	年度末			
			互いの授業を見合う期間や研究授業を通して、探究的に、深い学びへと導く指導方法の工夫改善を行う。	研修委員会での報告	実践報告	年度末			
			●基本的な生活習慣の確立 ●豊かな心・健全な心・道徳性の育成と児童生徒指導の充実 ●成長を認め褒め自尊心を高め、自分と人を大切にすることの育成 ●読書習慣の定着	自ら挨拶をすること、時間を守って行動すること、もくもく・きびきび・すみずみまで掃除することを生活目標に示し、日頃から教職員全員で指導する。 ★道徳の時間を軸に、道徳教育重点目標である自分も周りの人も大切に、仲間と共に協力して活動し、自分のやるべきことを最後までやり抜くことができる力をはぐくむ。 集団づくり活動や人権意識を高める取組を通して、豊かな心を育成する。 中図書館と連携し、読書イベントやブックトークを行うことで、子どもの読書量が増えるようにする。	「進んで挨拶をする」「もくもく・きびきび・すみずみまで掃除をしている」「時刻を守って行動している」肯定的回答が概ね80%以上 「自分にはよいところがある」「自分は困難なことに挑戦している」「自分は友だちやそのほかの人に思いやりの気持ちをもって接している」肯定的評価85%以上 「自分にはよいところがあると思っている」肯定的回答が概ね80%以上 「本を読むことが好き」肯定的回答が概ね80%以上	実践報告 学校アンケート 実践報告 学校アンケート 学校アンケート	年度末 年度末 年度末 年度末		
●特別支援教育委員会の充実を図り、在籍児童の情報共有し児童理解を深め、全ての教員の支援教育に関する専門性や指導力を高める。 ●支援が必要な通常の学級在籍児童に対して特別支援教育コーディネーターが個別の支援計画を立て、担任とともに学級内で支援を行い、インクルーシブ教育を推進する。 放課後指導や休憩時間など、児童一人ひとりと関わりを大切に、子どもの話をよく聞き、児童と教職員の信頼関係を築く。	特別支援教育委員会での報告 特別支援教育委員会での報告 特別支援教育コーディネーターからの報告	実践報告 実践報告	年度末 年度末						
豊かな心・健やかな体	児童生徒理解	・インクルーシブ教育の推進で誰一人取り残さない、温かな学級づくり ・児童生徒指導の充実 ・秩序と活気のある学びの場づくり	毎月7のつく日に校内放送で、家での7つのやくそくデーの啓発をする。	「家ではテレビやスマホ、タブレットの時間を決めている」「宿題・自主学習に進んで取り組んでいる」「早寝・早起き・朝ごはん」「本を読むことが好きだ」肯定的回答が概ね75%以上	学校アンケート 新体力テスト	年度末			
			運動の楽しさを実感できる体育授業の充実やなわとび朝会などの取組を行うことで、児童が主体的に運動に取り組む、総合的な体力の向上をめざす。	「体を動かすことが好き」肯定的回答が概ね80%以上 新体力テスト3種目(握力を含む)において堺市平均を上回る。	実践報告 学校アンケート	年度末			
			「朝食もう1品運動」「排便指導」を行い、より良い生活習慣の定着と意識向上に取り組む。	「早寝・早起き・朝ごはん」肯定的回答が概ね90%以上 朝食摂取習慣がある肯定的回答90%以上	学校アンケート 食育アンケート	年度末			
安心安全	危機管理	・「いじめは決して許されない」認識の育成と未然防止、早期発見・解決、迅速対応に向けた取組 ・安心安全な教育環境づくり	●いじめはどんな理由があっても許されないという認識をしっかりと育成し、「いじめ発見アンケート」を定期的に行い、いじめの早期発見・早期解決、迅速な対応に取り組む。	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」肯定的回答が概ね90% いじめの早期発見と対応状況	学校アンケート 問題行動調査	年度末			
			毎月の安全点検や避難訓練、緊急時の集団下校指導を実施し、安心安全な教育環境を整える。	「学校は、緊急時の対応について、よく考えている」肯定的回答が概ね95%以上	学校アンケート	年度末			
開かれた学校	保護者連携	保護者・地域との連携・情報発信	授業参観、オープンスクール、HP、広報、学年・学級だよりなどを通して、保護者・地域へ情報発信を行い、相互理解と連携に努める。	「学校は、校報・ホームページなどで教育方針や取組、子どもの様子を伝える努力している」肯定的回答が概ね80%以上	学校アンケート	年度末			
			地域と児童が交流する機会を通して、感謝の気持ちを育む。	「見守り隊や地域の方々に感謝している」肯定的回答が概ね90%以上	学校アンケート	年度末			

校長より(年度末) 学校関係者評価者から(年度末)